

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-120		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	上巻 20	1	発展 3次の乗法公式と3次式の因数分解	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)
2	22 - 23		「□1実数」における「●実数」及び「●循環小数」	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)の「分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを扱うものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
3	38	23	「上限」, 「下限」	生徒にとって理解し難い用語である。 (「上限」, 「下限」の意味が分からない。)	3-(3)
4	41		課題学習 1次不等式 他に, 66ページ「課題学習 2次関数の最大・最小」, 67ページ「課題学習 2次関数の決定」, 82ページ「課題学習 2次不等式」, 128ページ「課題学習 $\sqrt{2}$ が	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容「課題学習」の「生徒の主體的な学習を促し」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
			無理数であることの証明」		
5	54	囲み	25行横の囲みにおける「展開」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの部分の計算を「展開」として示しているのか分からない。)	3-(3)
6	70	20 - 22	20行から22行にある3つの記号「 \Leftrightarrow 」	組織が適切でない。 (この記号の説明は, 121ページでなされている。)	2-(12)
7	75	側注	「例題2」の「解」の中の側注「異なる2点で交わる」と「 $D>0$ 」間の2つの矢印 他に, 「例題3」の「解」の中の側注「接する」と「 $D=0$ 」間の2つの矢印	生徒にとって理解し難い記号である。 (何を意味しているのか分からない。)	3-(3)
8	144	12	適当に回答している。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように回答しているのか分からない。)	3-(3)
9	144	16 - 18	20人を1組として何回もくり返したところ, 20人中, 表が出た人数の割合は右のようになった。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を何回もくり返したのか分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-121		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返前2	3 - 5	放物線を、その軸を中心に回転させたときにできる放物面は、電波や音波を焦点と呼ばれる1点に集めることができる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (どのような電波や音波でも、すべて1点に集めることができる」と誤解するおそれがある。)	3-(3)	
2	9	14 - 15	同類項をまとめて整理した多項式において、最も次数の高い項の次数を、この多項式の次数といい、次数がnの整式をn次式という。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「多項式」と「整式」の使い分け方が分からない。)	3-(3)	
3	73	17	2次方程式の解の種類を、「判別式」を使って分類することができる。 他に、105ページ15,16行「判別式□C」によって、方程式の解の種類を分類しよう。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「解の種類」が何を指すのか分からない。)	3-(3)	
4	130	図	20行上の「発展」	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)	
5	130	20 - 21	発展 13	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)	
6	184	図	例7における大阪の箱ひげ図	不正確である。 (最小値の位置)	3-(1)	
7	205		研究 仮説検定と反復試行の確率	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (反復試行の確率)	2-(17)	
8	205	8	「試行」,「事象」	生徒にとって理解し難い用語である。 (用語の意味が分からない。)	3-(3)	
9	210	9 - 12	1(2)	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (分数式を含む不等式を解く問題)	2-(17)	
10	212	13 - 15	(1)の結果から、等式 $(ad+bc)x^2=\square A$ が成り立つことが分かる。多項式Aを因数分解するとき、Aに当てはまる式をa, b, c, dを用いて表せ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「□A」は、「多項式A」なのか、因数分解された「Aに当てはまる式」か分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-122		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	164	6	p. 145, p. 146	誤りである。	3-(1)				
2	181	12	174ページのデータA, Bの標準偏差「20, 10」	誤りである。	3-(1)				
3	197		研究 仮説検定と反復試行の確率	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (反復試行の確率)	2-(17)				
4	197	8	「試行」, 「事象」	生徒にとって理解し難い用語である。 (用語の意味が分からない。)	3-(3)				
5	201	9 - 12	1(2)	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (分数式を含む不等式を解く問題)	2-(17)				
6	207	19 - 20	まとめの課題3-2 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
7	208	1	発展 三角比の値と正弦定理 他に、210ページ1行「発展 偏差値」	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)				
8	208		発展 三角比の値と正弦定理 他に、210, 211ページ発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
9	217	11 - 13	a → b → c の順になるよう並べている。 このような順に整理することを輪環の順に整理するという。	不正確である。 (「a → b → c の順」は通常の順序である。)	3-(1)				
10	218	16 - 17	中心角が θ の余角で表される扇形の弦の長さを表すことから、 $\cos \theta$ を θ の余弦と呼ぶ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「中心角が θ の余角で表される扇形」がどの扇形か分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-124	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
--------------	---------	-------	---------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	34 - 35	13 - 22	○有理数	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)の「分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを扱うものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
2	43		発展 2重根号	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
3	156	12 - 21	発展 ヘロンの公式	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
4	201	18 右	「第5章 データの分析」の9(1)の解答	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-125		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	35	6 - 27	有限小数と循環小数	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)の「分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを扱うものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
2	83	7	2次関数のグラフと2次方程式との解の間には、	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような解が分からない。)	3-(3)
3	96 - 97		課題学習② たこ焼きの値段を考える	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容「課題学習」の「生徒の主体的な学習を促し」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
4	109	9 - 10	傾斜は1/12以下にする	生徒にとって理解し難い表現である。 (1/12の意味が分からない。)	3-(3)
5	113	13	例題3は	誤りである。	3-(1)
6	150 - 176		第5章 データの分析	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(4)の[用語・記号]の「外れ値」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
7	187	6 右	確認問題p. 119	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-126		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	59	19 - 20	aが平方数（自然数の2乗で表される数）の比になる	生徒にとって理解し難い表現である。 （数が平方数の比になるとはどういう意味か分からない。）	3-(3)
2	110	5	軸が定義域内にある ほか6行の「軸が定義域内がない」、7行の「軸が定義域内にある」	生徒にとって理解し難い表現である。 （x軸に垂直な直線である軸が、x軸のある範囲内にあるということやないということが分からない。）	3-(3)
3	124	1	発展 放物線と直線の共有点 ほか234ページ1行の「課題学習3 発展 方程式・不等式と関数のグラフ」	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)
4	169	図	中右の[3]の図の「BD」	生徒にとって理解し難い記号である。 （何を表す記号なのか分からない。）	3-(3)
5	223		研究 仮説検定と反復試行の確率	発展的な学習内容であることが明示されていない。 （反復試行の確率）	2-(17)
6	223	8	「試行」, 「事象」	生徒にとって理解し難い用語である。 （用語の意味が分からない。）	3-(3)
7	234 - 235		課題学習3 発展 方程式・不等式と関数のグラフ ほか238～239ページ「課題学習5 発展 データの推測」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
8	235	1	124, 125ページでは、放物線と直線の共有点について学習した。	生徒にとって理解し難い表現である。 （124～125ページの内容は発展的な学習内容なためすべての生徒が学習しているとは限らないので、なぜ「学習した」となるのか分からない。）	3-(3)
9	251	表	「□215ページ3～6行目で散布図に表したデータ」の表 ほか「□215ページで散布図に表した、ごみの総排出量と図書館の数のデータ、および229ページで散布図に表した、人口のデータ」の表	主たる記述と適切に関連付けて扱われていない。 （この資料を参考にしたページに、この資料がこのページにあることが示されていない。）	2-(13)
			た、人口のデータ」の表		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-127		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	23 - 25	5 - 10	有理数	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)の「分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを扱うものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
2	48	3 - 4	ただし、最多得票数を得た人が3人以上いる場合には、その中からくじ引きによって2人を選ぶことにする。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2位が2人以上いる場合も考えられるが、その場合の決め方が示されていないため、どう考えてよいか分からないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
3	84	1	研究 放物線と直線の共有点 発展	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)
4	108	6	よって、命題は真である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ「よって」になるのか分からない。)	3-(3)
5	114	23 - 24	注_	生徒にとって理解し難い表現である。 (112ページの例題1との対応が分からない。)	3-(3)
6	138	12 - 13	よって、直角三角形DBCにおいて、 $a=2R\sin\angle BDC=2R\sin A\cdots\cdots\textcircled{1}$	生徒にとって理解し難い表現である。 (「直角三角形DBCにおいて」ではない部分が含まれている。)	3-(3)
7	160		思考力を養う トレミーの定理 課題学習	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (分数式の計算)	2-(17)
8	165	5	箱ひげ図の最大値	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を示すのか分からない。)	3-(3)
9	169	22	分数を s_y^2	誤りである。	3-(1)
10	179	10 - 11	平均点周辺に値が集中している場合は、中央値を調べる必要があるかもしれない。	生徒にとって理解し難い表現である。 (中央値を調べる必要が分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-128		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	5	囲み	中左の囲み内の「発展」の説明	発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(17)
2	10	2	次のア～エの整式のうち、等しいものを選ぼう。	組織が適切でない。 (「整式」の学習は11ページから。)	2-(12)
3	66	9 - 25	math探 日常の論理 課題学習 日常 ほか165ページ「math探 偏差値 課題学習 日常」	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容〔課題学習〕の「生徒の主体的な学習を促し」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
4	104		math探 放物線と直線との共有点 発展研究	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (発展的な学習内容のマークが定義されていない。)	2-(17)
5	158	11 - 12	そのデータの値の中に	生徒にとって理解し難い表現である。 (「その」が何を指すのか分からない。)	3-(3)
6	160	図	15行下の箱ひげ図	生徒にとって理解し難い図である。 (外れ値を示したときの箱ひげ図のかき方が分からない。)	3-(3)
7	165	12	演習1(1)	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (標準偏差が与えられていないので、偏差値が求められないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
8	176	グラフ	右下の「1000回実験を行ったときの結果をまとめたヒストグラム」	生徒にとって理解し難いグラフである。 (度数の合計が異なる。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-129		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	6	6	解法に必要な考え方 ほか26～27行の「必要は費用や通信費 など」	誤記である。	3-(2)
2	24	15	$\sqrt{2}$ の値	不正確である。 (小数第19位)	3-(1)
3	29	16	例23(2)の「 $\sqrt{6 \cdot 15} = \sqrt{3^2 \cdot 15}$ 」	誤りである。	3-(1)
4	74	1	参考 放物線と直線の共有点 発展	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)
5	81		参考 放物線の図形的な性質	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (媒介変数表示の利用)	2-(17)
6	89	18 - 19	Uの部分集合 $A = \{\sim\}$, $B = \{\sim\}$ ほか90ページ問6の「Uの部分集合 $A = \{\sim\}$ $B = \{\sim\}$ 」	生徒にとって理解し難い表現である。 (A, BはUの部分集合になり得ない。)	3-(3)
7	136	12	$AH = AC \sin 78^\circ$	相互に矛盾している。 (条件で与えられた角の大きさと相互に矛盾)	3-(1)
8	144	20	上限	生徒にとって理解し難い表現である。 (「上限」の意味が分からない。)	3-(3)
9	147	図	12行下の箱ひげ図	生徒にとって理解し難い図である。 (外れ値を示したときの箱ひげ図のかき方が分からない。)	3-(3)
10	159	19	50ポイント	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ポイント」の説明がないので分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-129		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
11	167	12 - 21	□5の「右の図は、～1月から12月までの日ごとの最高気温の平均～間違いがあることがわかり、正しい支出は720円であった。」	生徒にとって理解し難い問題である。 (どのような条件のもとで考えているのか分からない。)	3-(3)
12	167	27	それぞれ	生徒にとって理解し難い表現である。 (「それぞれ」が何を指すのか分からない。)	3-(3)
13	171	3 - 22	「多項式 x^2+y^2 において、～「独創性を養おう 課題学習 ～確認してみよう。」」及びこれらの行の右に付いている「発展---	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (対称式の学習)	2-(17)
14	171	12	$x^3+y^3=(x+y)^3-3xy(x+y)$	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (3次の乗法公式を説明なく利用しているため、なぜこのような等式が成り立つのか理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
15	183	23	2 グラフを利用して、不等式 $ x^2-4 < 3x$ を解いてみよう。	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (放物線と直線の共有点の利用)	2-(17)
16	199	7 - 8	556円から910円までの区間に50%が含まれていることがわかる。	不正確である。	3-(1)
17	209	8 左	「章末問題 (42～43ページ)」の□4の解答のヒントの「 $A^2= A $ 」	誤りである。	3-(1)
18	213	4 - 5 左	「第3節 節末問題 (132ページ)」の□1(1)のヒントの「余弦定理を用いる。」	生徒にとって理解し難いヒントである。 (この問題は126ページの「正弦定理の利用」の問19のあとで取り組める問題となっているが、余弦定理は127ページからの学習なので、ヒントの趣旨が分からない。)	3-(3)
19	214	21 右	「章末問題 (166～168ページ)」の□5(2)の中央値の解答	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-130		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	3	29 左	探究 2次関数の解の配置・・・118 他に、右21行「活用 自動車の制動距離・・・122」	相互に矛盾している。 (対応するページの表題と異なる。)	3-(1)	
2	23	4 - 5	aをbで割る	生徒にとって理解し難い表現である。 (a, bがどのような数か分からない。)	3-(3)	
3	23	10	分数の形 他に、19行「分数の形」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「分数の形」と14行「分数」との違いが分からない。)	3-(3)	
4	32	20	22/71	誤りである。	3-(1)	
5	33	3 - 4	29ページでは、分母に2つの項を含む 分数について、分母を有理化する方法 を学んだ。 他に、7行, 12行, 19行の「分数」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「分数」の意味が分からない。)	3-(3)	
6	33	17	$\sqrt{a} + \sqrt{b} - \sqrt{c} / (a^2 + b^2 - c^2) + 2\sqrt{ab}$ 他に、18行「 $a^2 + b^2 - c^2$ 」	誤りである。	3-(1)	
7	33	21 - 23	考察2	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (簡単な無理数の四則計算を超えた計算)	2-(17)	
8	94	21 - 23	グラフ作成ツールを用いて、2次関数 $y=2x^2+4x-c$ のcの値を変化させると、 そのグラフは右の図のように変化する。 。	相互に矛盾している。 (「2次関数 $y=2x^2+4x-c$ 」は、右の図のグラフの関数と異なる。)	3-(1)	
9	145	23 - 24	12(2)	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (θ の値の範囲が分からず、問題が解けないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
10	155	1	数学II 他に、163ページ1行「数学II」	不正確である。 (発展的な学習内容の位置付けとして)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-130		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	181	13	標準偏差は3.16点 他に、15行「標準偏差は20.01点」	誤りである。	3-(1)				
12	182	図	8行下の箱ひげ図	生徒にとって理解し難い図である。 (外れ値を示したときの箱ひげ図のかき方が分からない。)	3-(3)				
13	189	25	地域経済分析システム (RESUS)	誤りである。	3-(1)				
14	195	15 - 27	多くの人が受験した試験の得点のデータを標準化すると、そのヒストグラムは次の図のような形になることが多い。 ～値をそれぞれ求めよ。	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (正規分布を用いた統計的な推測の学習)	2-(17)				
15	205	4	次元	生徒にとって理解し難い用語である。 (「次元」が何か分からない。)	3-(3)				
16	208	11 - 13	5 他に、14～18行「6」、209ページ10～14行「3」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(17)				
17	210	9 左	「1節問題(P.19)」の3における「 $a=1$ 、 $c=3$ 」	不正確である。 (すでに確かめている。)	3-(1)				
18	213	2 右	「2節問題(P.117)」の17の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (P.117に17の問題はない。)	3-(3)				
19	216	7 - 9 左	「練習問題(P.192, 193)」の3における「 $y=ax+b$ として、 y の標準偏差を求める式と、変数 y と z の相関係数を求める式に代入して考える。」	誤りである。	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-131		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	12	16	多項式の積を単項式の積の形に表すことを展開するという。	誤りである。 (定義として)	3-(1)				
2	17		発展 3次式の乗法公式 ほか37ページ「発展 二重根号」、117ページ「発展 放物線と直線の共有点」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
3	24	1 - 13	発展 3次式の因数分解	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
4	27	20	aをbで割る	生徒にとって理解し難い表現である。 (a, bがどのような数か分からない。)	3-(3)				
5	28	2	分数の形	生徒にとって理解し難い表現である。 (「分数の形」と6行「分数」との違いが分からない。)	3-(3)				
6	52	19	手順のxに代入して ほか22行の「手順のxに代入して」、 23行の「手順のxに代入して」、 53ページ1行の「手順のxに2を代入して」、 4行の「手順のxに3/2を代入し	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの手順を指すのか分からない。)	3-(3)				
			て」、7行の「手順のxに17/12を代入して」、 15行の「手順」、17行の「手順」 (2箇所)						
7	105	22	$y=a(x-p)^2+q$ とおいて求めることはできるだろうか。	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (連立3元2次方程式を解く問題)	2-(17)				
8	135	12	左ページの縮図の三角形	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの縮図のことか分からない。)	3-(3)				
9	135	15 - 17	90° までの角におけるタンジェントの値は、～、右の表のように、～近似値として記されている。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どこに記されているのか分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-131		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
10	146	図	問題8の図	相互に矛盾している。 (問題文と相互に矛盾している。)	3-(1)				
11	156	14 - 24	発展 180° より大きい角の三角比	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
12	159	18 - 19	三角形の1辺の長さ2つと2つの角の大きさが決まると、三角形はただ1つに定まり	不正確である。 (辺と角の対応が示されていない。)	3-(1)				
13	176	表	「①中間試験」, 「②期末試験」の表	不正確である。 (偏差の合計が0にならない。)	3-(1)				
14	188	10	183ページの数学と英語の得点の相関係数は0.92であり	生徒にとって理解し難い表現である。 (183ページには考察2-1のデータと右下の散布図のデータがあるので、どちらのデータのことか分からない。)	3-(3)				
15	188	図	17行下の箱ひげ図	生徒にとって理解し難い図である。 (外れ値を示したときの箱ひげ図のかき方が分からない。)	3-(3)				
16	212	13	拳の下端 (ほか17行の「拳の下端」, 「拳の上端」)	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの部分を指すのか分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-132		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	7	10 - 11 左	素因数分解… $12=2^2 \times 3$ のように、整数を素数の積の形で表すこと	不正確である。 (負の整数に関して)	3-(1)
2	29	11	無理数は、分数の形で表せないことが知られており、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「分数の形」がどのような数か分からない。)	3-(3)
3	98	側注	AD(A'D')は、 ・ $\angle BAD(\angle B'A'D')$ の二等分線 ・ BC(B'C')の垂直二等分線である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (括弧がどのように対応するのか分からない。)	3-(3)
4	125	側注	問題2の側注	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(2)のAの(ア)における「三角比の意味と相互関係について理解すること。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
5	151		外れ値	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(4)の[用語・記号]の「外れ値」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
6	157	図	○イ 通話時間と読書時間の散布図	不正確である。	3-(1)
7	179	9 左	問16(1)の解答の「25」と「22」	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-133		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学 I	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	上巻		数学 I -1及び数学 I -2全体	組織が適切でない。 (「数学 I -2」との関連が明確でない。)	2-(12)	
2	30	10 左	「1. 整数の計算 (p. 4~11)」の解答 「(34)987」	誤りである。	3-(1)	
3	40	24	$(x+4)(x-2)$	相互に矛盾している。 (22行の式と異なる。)	3-(1)	
4	42	16 - 23	例18	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (9行では因数分解を「多項式のかけ算の形で表すこと」としているが、多項式に単項式も含まれるのか分からず、例18が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
5	53	13	分母が根号のある数の和や差で表される分数	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような分数か分からない。)	3-(3)	
6	55	11	$\sqrt{2}$ は、分数の形で表せないことが知られている	生徒にとって理解し難い表現である。 (「分数の形」と側注の無理数の説明における「分数」との違いが分からない。)	3-(3)	
7	57	24	$24/99=8/11$	誤りである。	3-(1)	
8	65	囲み	「○?考えてみよう」の側注における 「 $x=-3$ 」	誤りである。	3-(1)	
9	82	2 - 3	$y=ax^2$ のグラフに重ね合わせるために、 グラフをどのように動かせばよいかを考えます。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「④グラフの平行移動」でのグラフの移動の仕方との対応が分からない。)	3-(3)	
10	98	2	1次不等式	生徒にとって理解し難い用語である。 (どこで説明されているのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-133		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	117	側注	例1の側注における「p. 107」	生徒にとって理解し難いページである。 (例1との関連が分からない。)	3-(3)				
12	122	吹き出し	15行横の吹き出し「鈍角のときも、鋭角のときと同じように定めるんだね。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (座標を使った鋭角の三角比の定め方がないため、鈍角も鋭角の場合と同じように定めているか分からない。)	3-(3)				
13	134	2 - 3	例1で求めた人数は、4時間以上8時間未満の階級の累積度数です。	生徒にとって理解し難い表現である。 (累積度数の階級による示し方が分からない。)	3-(3)				
14	136	13	142ページ	誤りである。	3-(1)				
15	137		外れ値	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(4)の[用語・記号]の「外れ値」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)				
16	147	27 - 28	右のコイン投げの実験結果をもとに考えてみよう。	生徒にとって理解し難い実験である。 (どのような実験か分からない。)	3-(3)				
17	152	図	例3の図	誤りである。	3-(1)				
18	156	側注	14行横の側注「用語」における「真のとき」	生徒にとって理解し難い表現である。 (何が「真のとき」か分からない。)	3-(3)				
19	168	14 中央	三角比・・・107 他に、右8行「正の相関関係・・・142」、 169ページ左14行「背理法・・・159」、左28 行「負の相関関係・・・142」	誤りである。 (ページ数が対応していない。)	3-(1)				
20	下巻 5	29 左	「教科書P. 53」の間12(2)における「 $2/\sqrt{7-\sqrt{3}}$ 」	誤りである。 (53ページの間12(2)の問題と異なる。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-133		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
21	5	14 右	「教科書P. 55」の間14における「 $\sqrt{4=2}$ だから」	生徒にとって理解し難い表現である。 (下の記述とのつながりが分からない。)	3-(3)				
22	6	7 右	「教科書P. 61」の間4(2)における「 $8x$ 」	誤りである。 (文字「 x 」)	3-(1)				
23	14	27 左	「教科書P. 96」の間5(2)における「2次方程式 $x^2-5x+5=0$ 」	誤りである。 (96ページの間5(2)の問題と式が異なる。)	3-(1)				
24	14	グラフ 右	「教科書P. 97」の○?の解答におけるグラフ	誤りである。 (「 $y=x^2-2x+5$ 」のグラフではない。)	3-(1)				
25	23	19 左	「教科書P. 139」の○?の「Aさんを使う。」における理由「Aさんのほうが平均値が大きく」	誤りである。	3-(1)				
26	23	10 右	教科書P. 144	誤りである。 (144ページに問題はない。)	3-(1)				
27	24	10 左	「教科書P. 145」の間11□3における「 $=1.4142\dots/2$ 」	生徒にとって理解し難い式である。 (145ページ問11の側注「 $\sqrt{2}=1.414$ として計算しよう。」との対応が分からない。)	3-(3)				
28	24	10 - 17 右	「教科書P. 147」の○?の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (147ページの○?では(1)～(4)の小問に分かれており、(1)～(4)の解答がどの部分か分からない。)	3-(3)				
29	25	5 - 8 左	「教科書P. 148」の①(2), (3)の文	相互に矛盾している。 (148ページの問題文と異なる。)	3-(1)				
30	26	5 左	「教科書P. 150」○?の解答「○ア, ○イ」	生徒にとって理解し難い解答である。 (150ページ○?の問題で「自分がふくまれる集まり」としてこのように定まることが分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-134		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	23 - 24	10 - 22	①有理数	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)の「分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを扱うものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)				
2	31	18	発展 対称式 ▲数学II 他に、155ページ1行「発展 ヘロンの公式 ▲数学II」、198ページ1行「課題学習 発展 機内持込み手荷物 ▲数学II」	不正確である。 (発展的な学習内容の位置付けとして)	3-(1)				
3	31	22	$x^3+y^3=(x+y)^3-3xy(x+y)$	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (3次の乗法公式を説明なく利用しているので、なぜこのような等式が成り立つのか理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)				
4	42	図	例題3における3つの数直線の図	生徒にとって理解し難い図である。 (「 $2x+1$ 」の意味が分からない。)	3-(3)				
5	45	16 - 18	発展 □7	学習指導要領に示す内容を発展的な学習内容として扱っている。 (内容(1)のAの(ア)における「簡単な無理数の四則計算をすること。」の内容である。)	2-(15)				
6	48	9 - 10	それに属しているか属していないかを明確に区別できるものの集まりを集合という。	組織が適切でない。 (「属する」の説明は12行でなされている。)	2-(12)				
7	180	23	xyの平均値	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなデータの平均値なのか分からない。)	3-(3)				
8	191	図	章末問題○A□2の箱ひげ図	生徒にとって理解し難い図である。 (箱ひげ図の30のデータとヒストグラムとの対応が分からない。)	3-(3)				
9	198		課題学習 発展 機内持込み手荷物	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
10	201		発展 確率と仮説検定 ▲数学B	学習指導要領に示す内容と適切な関連がない。	2-(16)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-135		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学 I		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	2	囲み	「学習の進め方」の枠囲み「選択的に学ぶ」における「課題学習1」	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容〔課題学習〕を「選択的に学ぶ」とする扱いが不適切である。)	2-(1)				
2	24	1	3次式の展開と因数分解 発展 他に、110ページ「放物線と直線の共有点 発展」	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)				
3	24 - 25		思考力PLUS 3次式の展開と因数分解 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
4	27	1	mをnで割る	生徒にとって理解し難い表現である。 (m, nがどのような数か分からない。)	3-(3)				
5	35		思考力PLUS 二重根号 発展 他に、110ページ発展, 153ページ発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
6	189	11 - 12	課題PLUS QRコンテンツのデータを用いて、翼の面積の外れ値についても同様に調べてみよう。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (QRコンテンツのデータにアクセスしなければ課題に取り組むことができないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-136	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学 I	学年
--------------	---------	-------	---------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	1	22 - 23	発展は数学IIの内容を含んでおり、興味・関心に応じて選択してとりくむものです。	発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(17)
2	23	25	やってみよう 発展	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)
3	23	25 - 26	やってみよう 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
4	36 - 39	4 - 22	「1 有理数」及び「2 分数と小数」	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)の「分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを扱うものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
5	40	6	分数 m/n の形	生徒にとって理解し難い表現である。 (m, n が何か分からない。)	3-(3)
6	78	5	花だんの面積が最大となるときの縦の長さを求めなさい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (右の図の花だんの縦の部分がどこか分からない。)	3-(3)
7	124	2 - 3	「四角形で2組の対辺が平行ならば平行四辺形である」のように、命題は「 p ならば q 」の形で表されることがある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (例では p がどのようになるのか分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-137		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	上巻 3	17 - 21	本章で学習するパスカルの三角形には、～この図形をよく見ると、図形の一部と図形全体が相似になっていることがわかる。	不正確である。 (ここにおける図形は、図形の一部と図形全体が相似になっていない。)	3-(1)				
			このような性質をもつ図形はフラクタル図形とよばれ、3で割った余り0, 1, 2を3色で色分けしても、別のフラクタル図形が現れる。						
2	42		課題学習 対称式と基本対称式	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (対称式の学習)	2-(17)				
3	64	13 - 14	2直線 $2x+y-3=0$, $4x+2y+1=0$ は、それぞれ $y=-2x+3$, $y=-2x-1/2$ と変形できる。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)				
4	92		課題学習 線形計画法	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容「課題学習」の「生徒の主体的な学習を促し」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)				
5	下巻 14	25 - 27	このとき、電車がA駅を出発してから(ア)分後で、平均の速さは分速900mとなります。また、電車がA駅を出発して(ア)分後から10分後までの平均の速さも、分速900mとなります。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の平均の速さなのか分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-138		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	196	1	発展 関数の極限值	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)
2	206	24 - 25	深める 放物線 $y=f(x)$ と直線 $y=g(x)$ が接するとき、 $f(x)=g(x)$ を整理して得られる2次方程式は重解をもつ。このことを、応用例題1の結果を用いて確かめよう。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (指摘事項前半の内容を、応用例題1という具体的な例のみで証明できるかのように誤解するおそれがある。)	3-(3)
3	247	14 - 15	発展(6)	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)
4	255	17 - 20	発展 まとめの課題3-2	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)
5	260 - 261		課題学習6 速度と定積分	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (微分と積分の関係に着目して事象を数学的に捉える学習)	2-(17)
6	260	表	課題15の表の「km/時」 ほか13行の「km/秒」、261ページ課題18のグラフ縦軸の「m/秒」	表記の基準によっていない。	3-(4)
7	263	4	弦の長さに整数を掛けた波長の音	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような音なのか分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-140	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
--------------	---------	-------	--------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	21	4 - 6	分母が異なる分数式の加法，減法では，分母を同じ整式にしてから計算する。2つ以上の分数式の分母を同じ多項式にすることを通分するという。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「整式」と「多項式」を違えて表現する理由が分からない。)	3-(3)
2	54	10	放物線 $y=ax^2+bx+c$ のグラフ	生徒にとって理解し難い表現である。 (図形のグラフとは何か分からない。)	3-(3)
3	237	5 右	「Warm-up(p. 111)」の「□三角比の等式を満たす θ 」の「(2) $\theta=120^\circ$ 」	誤りである。	3-(1)
4	242	9	徐々に直線 $\theta=\pi/2$ に近づいていくが， $\theta=\pi/2$ と交わることはない。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-141		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	226	7	km/時 ほか19行の「m/秒」	表記の基準によっていない。	3-(4)				
2	227	グラフ	上のグラフ	不正確である。 (目盛りの間隔)	3-(1)				
3	227	5 - 13	これは、上の図のグラフと～図形の面積と一致します。 すなわち、～積分 $s = \int_a^b f(t) dt$ で求めることができる。 ほか14～17行「課題2」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (微分と積分の関係に着目して事象を数学的に捉える学習)	2-(17)				
4	230	8 左	「第3章 図形と方程式」の17(1)の解答	誤りである。	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-142		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	35	17 - 20	例題9の証明	不正確である。 (18行の式の帰結が分からず、模範的証明として不正確である。)	3-(1)				
2	54	20 - 25	補足	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (対称式の学習)	2-(17)				
3	71	20 - 22	発展 8	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
4	71	20 - 22	発展 8	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (どのような方法で求めることができるか分からず、解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)				
5	116	15	(x, y)全体の集合 他に、118ページ5行「(x, y)全体の集合」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「(x, y)は値の組であり、その集合が座標平面上の領域となることが分からない。)	3-(3)				
6	118	7 - 8	各kの値について、 $x+y=k$ を満たす(x, y)の値が領域内に存在するかどうか	生徒にとって理解し難い表現である。 (「(x, y)の値が領域内に存在する」ことの意味が分からない。)	3-(3)				
7	127	15	□p. 145練習16	誤りである。 (145ページに練習16はない。)	3-(1)				
8	265	12 - 14	課題3のようにこの領域を分けるとき、あるコンビニを利用する人の数は、分けられた領域のうち、その場所を含む部分の面積に比例する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「その場所」がどの場所か分からない。)	3-(3)				
9	267	15 - 18	発展 まとめの課題3	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)				
10	276	7 右	「章末問題・・・p. 40, 41」における 「(1) $4/1-x^4$ (2)0」	生徒にとって理解し難い解答である。 (どの問題の解答か分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-143		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	14	6 - 9	一般に、整数aと正の整数bに対して、 ～が成り立つ。	不正確である。 (4ページにおける13行の「(本文中) 」の凡例に 合わない。)	3-(1)
2	73	12 - 13	平行な直線は、それぞれ、 $y=mx$ 、 $y=m'x$ になるから ほか74ページ17～18行の「直線は、～ $y-4=3/2(x-1)$ 」	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)
3	88	16	①と②の中心間の距離	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)
4	90	12 - 13	よって、①は、2直線～の交点を通る 直線を表す。	生徒にとって理解し難い表現である。 (直線になる理由が述べられていない。)	3-(3)
5	91	22	③が点(3, 2)を通る	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)
6	108	7	「3次元」, 「2次元」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)
7	108	12	g は重力加速度という定数でおよそ9.8	不正確である。 (どのような単位系で考えているのかが示されてい ない。)	3-(1)
8	217	15	積分区間	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)
9	224	16	km/時	表記の基準によっていない。	3-(4)
10	228	25 - 26	Dはちょうど6分で1周する	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を基準として1周するのか分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-144		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	表紙	図	右下の図における「 $y=\sin\theta$ 」	相互に矛盾している。 (図のx軸と対応していない。)	3-(1)				
2	4	囲み	中左の囲み内の「発展」の説明	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)				
3	4	囲み	中左の囲み内の「発展…指導要領の範囲外」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (本文中に「発展」があると誤解するおそれがある。)	3-(3)				
4	7	4	aが0以上のとき、 $a+1/a$ の最小値は?	不正確である。 (aの値を0以上としている。)	3-(1)				
5	22	18 - 23	Column 恒等式の係数の求め方	不正確である。 (恒等式となることを確かめていない。)	3-(1)				
6	213	20	相乗平均 及び、20行下の表の項目「相加平均」	生徒にとって理解し難い用語である。 (3つの数の「相乗平均」, 「相加平均」が何か分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-145		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	4	7	解法に必要な考え方 他に、25～26行の「必要は費用や通信費など」	誤記である。	3-(2)				
2	12	6 - 9	一般に、整数aと正の整数bに対して、aをbで割った商がqで、余りがrであるとき、 $a=bq+r$ 、 $0 \leq r < b$ が成り立つ。	不正確である。 (2ページ5行～6行の「review」における説明と合わない。)	3-(1)				
3	50	18 - 19	1の3乗根のうち、虚数であるものの1つを ω とすると、次の式が成り立つことを示せ。	生徒にとって理解し難い表現である。 ((1)の問題で、式が何か分からない。)	3-(3)				
4	70	12 - 13	点(1, 4)を通り、1に平行な直線は、 $y-4=-2/3(x-1)$ 他に、17～19行「点(1, 4)を通り、1に垂直な直線は、 $y-4=3/2(x-1)$ 」	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)				
5	105	1 - 3	弧度法を用いると、 θ の動径OPの表す一般角は、 $\alpha+2n\pi$ と表される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (θ と α の関係が分からない。)	3-(3)				
6	133	1	発展 数学Ⅲ	不正確である。 (発展的な学習内容の位置付けとして)	3-(1)				
7	136	図	下のおんさAとおんさBの振動を表す図	相互に矛盾している。 (10行の「fAはfBより大きい」と異なる。)	3-(1)				
8	138	15 - 16	mが正の整数で、 $m=-n$ のとき、指数法則 $a^m \cdot a^n = a^{m+n}$ が成り立つとすると、 $a^{-n} = 1/a^n$	生徒にとって理解し難い表現である。 (mを正の整数とするとnは負の整数となるが、これが19行のまとめとどのように関連するのか分からない。)	3-(3)				
9	206	18	(ii)関数f(x)のx=aにおける微分係数は $2a+1$ である。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (aがどのような数か分からず、解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)				
10	208	1	ニュートンが見つけた落下の法則 発展	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-145		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
11	216	22	$x^3-4x^2+ax+b=x^3-(\alpha+2)x+(2\alpha+5)x-5\alpha$	誤りである。	3-(1)
12	217	1 - 27	3次方程式の解と係数の関係	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (3次方程式の解と係数の関係)	2-(17)
13	225	17 - 19	多様性を養おう	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (図形の回転移動)	2-(17)
14	236 - 237	21 - 22	ところで、定積分①を、等式②に基づいて計算することはできないだろうか。～これはなぜだろうか。	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (二次までの関数を中心とする扱いを超える扱い)	2-(17)
15	238	囲み	「1. 式と証明・高次方程式」の右段15, 17行における「整式」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「p. 46」, 「p. 48」の対応するまとめにおける「多項式」と異なる理由が分からない。)	3-(3)
16	246	22 左	「第1節 節末問題(18ページ)」における□7(4)のヒント「 $1/1-1/x=1\div(1-1/x)$ を繰り返す。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (この式と同じ計算を繰り返せば、解答できると誤解するおそれがある。)	3-(3)
17	251	15 右	「第1節 節末問題(149ページ)」における□1(4)の解答「 $a^{-13}/12$ 」	誤りである。	3-(1)
18	252	11 右	「章末問題(164～165ページ)」における□5(1)の解答「 $1/2 < x < 1$ 」	誤りである。	3-(1)
19	252	36 右	「章末問題(164～165ページ)」における□13の解答「9時間30分後」	生徒にとって理解し難い解答である。 (165ページ□13の問題では「何時間後か」とあるため、「分」も含めて解答しなければならないことが分からない。)	3-(3)
20	253	6 左	「第1節 節末問題(177ページ)」における□2(3)の解答「 $y'=4x^3+6x-7$ 」	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-146		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	3	22 - 24 左	探究 円～の外部の点～から定まる直線 $x_0x+y_0y_2=r^2\cdots\cdots 96$	相互に矛盾している。 (96ページの表題と異なる。)	3-(1)				
2	45	24 - 26	発展 以下は、発展的な内容です。 及び「考察5」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)				
3	63	8 - 9	$y=2x, y=x+1$ という1次式	生徒にとって理解し難い表現である。 (1次式が何を指すのか分からない。)	3-(3)				
4	96		探究 円～の外部の点～から定まる直線～ 【課題学習】	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容「課題学習」の「生徒の主体的な学習を促し」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)				
5	108	10 - 11	これら2つの図形	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を指すのか分からない。)	3-(3)				
6	152	1	発展 和と積の変換公式 [数学III]	不正確である。 (発展的な学習内容の位置付けとして)	3-(1)				
7	189	4	m/秒	表記の基準によっていない。	3-(4)				
8	236	5	関数 $y = \int_0^3 x(x-2) dx$ の原始関数は、そのままでは考えにくい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (定数関数の原始関数をなぜ考えるのか分からない。)	3-(3)				
9	239	3	201ページの問題8の結果を用いると	生徒にとって理解し難い表現である。 (4行以下の内容と問題8との関連が分からない。)	3-(3)				
10	249	2 - 4	正方形は、左右を入れ換えるともとの図形と一致する線対称な図形であり、 90°回転するともとの図形と一致することから回転対称な図形ともいえます。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように入れ換えるのか、どのように回転させるのか分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-146		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
11	249 - 250	6 - 9	式変形の際に利用する 他に、251ページ16行「■対称式は、 その性質を利用して式変形の見通しを 立てることができる。」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (対称式の学習)	2-(17)
12	253	5 - 6	これは、点(a, y)が、領域Dに含まれる 直線x=aの上端にあるときです。	生徒にとって理解し難い表現である。 (領域Dに含まれる直線とは何か分からない。)	3-(3)
13	256	12 - 15	□6 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (簡単な高次方程式の解法を超える学習)	2-(17)
14	259	19 左	(P.36) 他に、右8行「(P.45)」	誤りである。	3-(1)
15	260	7 - 12 左	「4節 問題」の26の証明の指針	誤りである。 (57ページの出題と対応していない。)	3-(1)
16	260	13 - 20 左	「4節 問題」の27の説明の指針	不正確である。 (誤りの指摘が不十分である。)	3-(1)
17	266	3 - 5 左	「2節 問題」の14の解答	誤りである。	3-(1)
18	266	25 右	(P.249) 他に、右27行「(P.251)」, 右29行 「(P.253)」, 267ページ左2行 「(P.254)」, 左9行「(P.254)」, 左 15行「(P.255)」, 右8行「(P.255)」	誤りである。	3-(1)
			, 右13行「(p.256)」		
19	266	29 右	「巻末 見方・考え方」の問5の解答「 c=27」	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-147		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	16	8	$5C_1(a+b)^4r$	誤りである。	3-(1)
2	32	17 - 18	2次関数 $y=ax^2+bx+c$ とx軸の共有点	不正確である。 (関数とグラフを混同している。)	3-(1)
3	40	12	よって、 x^2-2x+3 は $x+1$ で割り切れるから	誤りである。	3-(1)
4	75	15 - 16	座標軸上で考えたことを数直線上でも同様に考えることができる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「座標軸上で考えたこと」が何を指すのか分からない。)	3-(3)
5	113	図	27の問題における図	生徒にとって理解し難い図である。 (領域(ア)、(イ)、(ウ)がどの部分か分からない。)	3-(3)
6	124	5	xy平面	生徒にとって理解し難い用語である。 (どこで説明されているのか分からない。)	3-(3)
7	129	14 - 15	それぞれの点に対する動径	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような動径か分からない。)	3-(3)
8	139	11	単位円をかいたとき、三角関数の値はどの位置を表すだろうか。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の位置を問題としているのか分からない。)	3-(3)
9	170	16	$\sqrt{2} \div 1.41$ より、 $x=-3/2, -1/2, 3/2$ のときの 2^x の値を計算すると	相互に矛盾している。 (17~18行での計算と異なる。)	3-(1)
10	190	16	次に、常用対数を利用して、正の整数の桁数について考えてみよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (次にある問16との関係が分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-147	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
--------------	---------	-------	--------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
11	239	18 - 19	b=xのとき $S=S(x)$ とすると、前ページの①より、 $S'(x)=f(x)$ である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「b=x」としたときのxが何か分からない。)	3-(3)
12	243	16	求める面積S	生徒にとって理解し難い表現である。 (求める面積が何か分からない。)	3-(3)
13	256	16 - 23	深める	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (2次曲線に関わる学習)	2-(17)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-148		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	2	囲み	「学習の進め方」の枠囲み「選択的に学ぶ」における「課題学習1」	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容〔課題学習〕を「選択的に学ぶ」とする扱いが不適切である。)	2-(1)
2	9	22	注意 上の式の $4 \cdot x^3 \cdot 3$ などにおける \cdot は、積を表す記号で \times と同じ意味である。	組織が適切でない。 (「 \cdot 」は同ページ3行の式で使われている。)	2-(12)
3	76	20 - 21	平行な直線は $3x-4y-5=0$ 垂直な直線は $4x+3y-15=0$	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)
4	110	2 - 3	これまでは、角の大きさを表すのに、度数法とよばれる表し方を用いてきた。	生徒にとって理解し難い表現である。 (度数法の説明がなく分からない。)	3-(3)
5	137		思考力PLUS 和と積の公式 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
6	161	12	練習2(2), (4)	組織が適切でない。 ((2)は1行の例1に答えがあり, (4)は3行の練習1(1)で答えを求めている。)	2-(12)
7	201	5	x^2+C	生徒にとって理解し難い式である。 (Cの説明がない。)	3-(3)
8	222	11 - 12	課題2	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (図の下側や右側ののりしろの幅が分からず、解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
9	222	13 - 15	課題3	生徒にとって理解し難い課題である。 (10行との関係が分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-149	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
--------------	---------	-------	--------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	1	29 - 30	発展は数学Ⅲの内容を含んでおり、興味・関心に応じて選択してとりくむものです。	発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(17)
2	123	6	k/s	生徒にとって理解し難い単位である。	3-(3)
3	157	2	発展 ジェットコースターと微分・積分	学習指導要領上の位置付けが明示されていない。	2-(17)
4	巻末2	26 - 27 右	$F'(x)=f(x)$ のとき $\int f(x)=F(x)+C$	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-150		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	56		発展 3次式の因数分解の公式	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)
2	63	3 - 12	Introduction	不正確である。 (4ページ「教科書のでびき」における13行の凡例に合わない。)	3-(1)
3	78	19 - 20	$x-3y+1+k(2x-y-3)=0$ …① は、2直線l, mの交点を通る。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)
4	228	19 - 23	時刻tにおける使用電力をf(t)とすると、 $W=\int_{t_0}^{t_1} f(t)dt$ で求めることができる。	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (微分と積分の関係に着目して事象を数学的に捉える学習)	2-(17)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-151		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	上巻 表見返 1	3	「別冊の書名が入る」では、本冊の学習に必要な既習事項を扱っています。 ほか55ページ右上囲み内の「本章に関する既習事項は「別冊の書名が入る」	不正確である。 (別冊12ページ「3章 図形の性質 立体を平面で切ったときの切り口」で既習事項ではない事項を扱っているの、指摘事項に示した内容と合わない。)	3-(1)				
			p. 4～13で扱っています。」 別冊の表1の2～3行「別冊の書名が入る」では、数学Aで扱う～に関する既習事項を扱っています。」						
2	32	10 - 11	事象は全事象の部分集合で表される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ部分集合と考えることができるのか分からない。)	3-(3)				
3	42	20	求める確率	生徒にとって理解し難い表現である。 (「求める確率」が何を指すのか分からない。)	3-(3)				
4	50	6	確率分布表 ほか19行の「確率分布表」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (「統計的な推測」の学習)	2-(17)				
5	51	2	出た目の数に10を掛けた金額を受け取る ほか8行の「出た目の数に30を掛けた金額を受け取る」	生徒にとって理解し難い設定である。 (単位が分からない。)	3-(3)				
6	73	4	四角形が円に内接するとき、次のことが成り立つ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (指摘事項下の「四角形が円に内接する条件」と対応しない。)	3-(3)				
7	91	6 - 7	円の弦の両端を、弦に垂直な直径を軸として回転すると、円は球をえがき、弦は円をえがく。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「弦の両端」を回転させる意味が分からない。)	3-(3)				
8	121	7 - 10	上の図で、 $\sim\beta'$ とする。 点Aから点Bにいたる折れ線の長さ $\sim A$ 、P、Bが一直線上にあるとき最短になる。	生徒にとって理解し難い表現や図である。 (10行下の図の記号の使い方との関係が分からない。)	3-(3)				
9	124	8 - 15	同様に、空間内の点の位置を表すときには、 \sim 座標軸という。 空間内の点Pに対し、 \sim その点が表す数の組を用いて、Pの位置を表すことができる。 \sim 、点Pの座標という。	生徒にとって理解し難い表現である。 (座標軸の決め方が分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-152		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	40	21 - 24	発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
2	55		Column 同じ誕生日の人がいる確率	生徒にとって理解し難いコラムである。 (どのような設定で考えているのか分からない。)	3-(3)
3	107	7	【補足】 方べきの定理Ⅱについても、その逆が成り立つ。	生徒にとって理解し難い命題である。 (「逆」がどのような命題なのか分からない。)	3-(3)
4	163	4 - 23	例16及び練習37	数学Ⅱの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
5	166 - 167		研究 2点間の距離	数学Ⅱ及び数学C「(1)ベクトル」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
6	174 - 176		補足 合同式 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
7	178	17	$x+4$	誤りである。	3-(1)
8	180 - 186		「総合問題」及び「数学と〇〇」	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-153		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	101	17	方べきの定理IIについても、その逆が成り立つ。	生徒にとって理解し難い命題である。 (逆がどのような命題か分からない。)	3-(3)
2	155	4 - 22	例15及び練習34	数IIの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
3	158 - 159		研究 2点間の距離	数学II, 数学C(1)「ベクトル」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
4	166 - 167		補足 合同式 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
5	170 - 172		総合問題	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
6	176	1 左	総合問題(p. 169～172)	不正確である。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-154		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	91	16	方べきの定理Ⅱについても、その逆が成り立つ。	生徒にとって理解し難い命題である。 (逆がどのような命題か分からない。)	3-(3)
2	115	3	ゲーム・パズルの中の数字	相互に矛盾している。 (148ページの表題と異なる。)	3-(1)
3	145	4 - 23	例15, 練習34	数学Ⅱの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
4	156 - 159		総合問題	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
5	160	8 右	「章末問題(p. 64, 65)」における「1(1)」	誤りである。 (1の問題に(1)はない。)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-155		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	52 - 53		15 期待値	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(2)のイの(ウ)の「期待値を意思決定に活用したりすること。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
2	73	16 - 18	このとき、 $AD/DB \cdot BE/EC \cdot CF/FA = 1$ が成り立つから、線分AE, BF, CDは1点Oで交わる。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (未習の内容を使用しているため、理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
3	74	24	$ b-c $	数学Ⅰの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
4	84	4 - 5	「円と直線の位置関係には、次の3つの場合がある。」及び、下の図	不正確である。 (4ページ「この本の使い方」における2行の凡例に合わない。)	3-(1)
5	116	5	素数 他に、117ページ5行「素因数分解」、137ページ2-10行「座標平面」	不正確である。 (4ページ「この本の使い方」における2行の凡例に合わない。)	3-(1)
6	122	19 - 20	方程式 $3x+8y=M$ が成り立ちます。このような方程式を満たす整数 x, y を求める方法を学習します。	生徒にとって理解し難い表現である。 (解く方法を学習する127ページから129ページでは $ax+by=1$ の形のみ扱っているため、「このような方程式」の意味が分からない。)	3-(3)
7	137	19 - 20	練習22	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (作図における定規の使い方の規定により、8cm, 7cm, 5cmの長さがとれず、作図できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
8	138	1 - 26	座標を用いることで、 \sim Pの位置を調べることができる。	数学Ⅱの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
9	139	17 - 24	空間において \sim 球面は方程式 $x^2+y^2+z^2=r^2$ で表せることがわかる。 \sim 点の座標を瞬時に求めているのである。	数学C(1)「ベクトル」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-157		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	47	17	根元事象の考え方	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような考え方が分からない。)	3-(3)
2	65	20 - 21	*例題8の事象A, Bとその確率について、右のような表に整理することもできる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (空欄が埋められず、どのように整理できるのか分からない。)	3-(3)
3	135	7	対角線AC	生徒にとって理解し難い表現である。 (点Aがどのような点か分からない。)	3-(3)
4	169	20 - 27	練習43	数IIの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
5	172 - 173		研究 2点間の距離	数学II, 数学C(1)「ベクトル」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
6	186 - 187		補足 発展 合同式	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
7	188 - 190		総合問題	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、選択が不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
8	196	24 - 25 右	積事象[union of events]→p. 50 和事象[intersection of events]→p. 50	不正確である。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-158		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	43	12 - 13	例題13は、さいころに大小の区別がない場合でも区別があると考える。	生徒にとって理解し難い表現である。 (例題13は大小の区別がある場合であるため、文の意味が分からない。)	3-(3)				
2	74	10	注_定理1, 定理2は、それぞれ逆も成り立つ。 他に、94ページ22行「定理15は、逆も成り立つ。」、97ページ22行「方べきの定理16(2)の逆も成り立つ。」	生徒にとって理解し難い命題である。 (逆がどのような命題か分からない。)	3-(3)				
3	79	9	AD ⊥ NM	生徒にとって理解し難い記号である。 (文に付属しているのか、図に付属しているのか、分からない。)	3-(3)				
4	130	7 - 8	3と4は互いに素であるから、kを整数として、 $x+1=4k$ 、すなわち、 $x=4k-1$ と書ける。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (なぜ互いに素であることかからいえるのか説明がなく、理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)				
5	137	25 - 26	(2) $m \times n$ の長方形の図形があるとき、この図形のマス目が偶数であることは、この図形がドミノで敷き詰められるための□。	生徒にとって理解し難い問題文である。 (どのような設定か分からない。)	3-(3)				
6	142 - 147		思考力をみがく	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)				
7	149	2 - 3	126～131ページでは、最大公約数を用いたが、ある自然数が2, 3, 4, 5, 6, 8, 9の倍数であるか見分けるには、次のような方法が知られている。	生徒にとって理解し難い表現である。 (最大公約数を何に用いたのか分からない。)	3-(3)				
8	154	16 - 17 右	第4節 節末問題(114ページ)□2	生徒にとって理解し難い説明である。 (三垂線の定理を用いることが分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-159		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	5	囲み	中左の囲み内の「発展」の説明	発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(17)				
2	8	3 - 4	また、それらを用いて、ある事柄が正しいか正しいかを示す方法について学ぼう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (序章で扱われていない。)	3-(3)				
3	49 - 51		3 期待値	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(2)のイの(ウ)の「期待値を意思決定に活用したりすること。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)				
4	67 - 109		第2章 図形の性質	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(1)のイの(イ)における「作図について統一的・発展的に考察すること。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)				
5	81	4	$\triangle ABP$ と $\triangle ACP$ は高さが等しいので、	生徒にとって理解し難い表現である。 (どこが底辺か分からない。)	3-(3)				
6	86	11	半円の弧(直径)に対する円周角	生徒にとって理解し難い表現である。 (括弧の意味が分からない。)	3-(3)				
7	104	10	3点A, B, Cを通る平面 α は立方体の上の面と2点で交わり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (2点で交わることが分からない。)	3-(3)				
8	110	5	倍数 ある数に整数をかけてできる数。 他に、7行「約数 ある数を割ったときに割り切れる数。」	不正確である。 (ある数の条件が示されていない。)	3-(1)				
9	112	16 - 17	縦a, 横b(a<b)の長方形をP, 1辺の長さがcの正方形をQとする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (a, b, cが何か分からない。)	3-(3)				
10	114	18	aとb	生徒にとって理解し難い表現である。 (aとbが何か分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-159		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	130 - 131		math探 黄金比と正二十面体 発展	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)				
12	130 - 131		math探 黄金比と正二十面体 発展	数学C(1)「ベクトル」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)				
13	130	18	xz平面	相互に矛盾している。 (129ページ4行の表記と異なる。)	3-(1)				
14	131	21 - 23	図1より，Rの長辺CEは正五角形ABCDEの対角線に一致している。これまでの結果から，正五角形の一辺と対角線の長さの比は黄金比に一致していることがわかる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (空間内の5点を結んだ図形が正五角形となることが分からない。)	3-(3)				
15	142	16	84ページの辺と角の大小関係より	不正確である。 (ページ数)	3-(1)				
16	147	12 右	二元一次方程式……………115	不正確である。 (115ページには「二元一次方程式」がない。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 102-160		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	6	7	解法に必要な考え方 他に、23-24行「必要は費用や通信費 など」	誤記である。	3-(2)				
2	9	7	例2における「 $C=\{4, 5, 6\}$ 」	生徒にとって理解し難い集合である。 (例2においてCが何のためにあるのか分からない。)	3-(3)				
3	45	5 - 6	ここで、試行T1で表が出る事象をA, 試行T2で2以下の目が出る事象をBとす ると	生徒にとって理解し難い表現である。 (事象Aと事象Bはどのような事象なのか分からない。)	3-(3)				
4	46	14	$P(A \cap B \cap C)$	生徒にとって理解し難い表現である。 (別々の試行における事象の共通事象とは何か分からない。)	3-(3)				
5	54 - 56		第5節 期待値	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切 である。 (内容(2)のイのウの「期待値を意思決定に活用し たりすること。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)				
6	59	10	■7(1)における「50000」	生徒にとって理解し難い問題である。 (作られる整数はすべて6桁である。)	3-(3)				
7	65	20 - 21	よって、～点Gは3本の中線をそれぞれ 2:1に内分する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (中線CN, ALについては示されていない。)	3-(3)				
8	68	22	●注 チェバの定理は、その逆も成り 立つ。 他に、69ページ23行「●注 メネラウ スの定理は、その逆も成り立つ。」、 78ページ20行「●注 定理13は、その	生徒にとって理解し難い表現である。 (逆がどのような命題か分からない。)	3-(3)				
			逆も成り立つ。」、81ページ8行「方 べきの定理IIについても、その逆が成 り立つ。」						
9	106	23	互いに素	生徒にとって理解し難い用語である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-160		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
10	135	12 - 13	定理2の交点は、直線AB, BC, CAから等距離にあるから	生徒にとって理解し難い記号である。 (定理2において、直線AB, BC, CAが何か分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-161		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	③	20 - 21	本書は数学 I の「数と式」を既に学んでいるものとして編集しています。	不正確である。 (3章の114ページでは、「数学 I の「図形と計量」をすでに学んでいるものとする。」と書かれている。)	3-(1)
2	26	1 - 2	例題8	生徒にとって理解し難い例題番号である。 (25ページにも「例題8」がある。)	3-(3)
3	71	13	重心と垂心が一致することから	生徒にとって理解し難い方針である。 (「垂心」がどう関わるのか分からない。)	3-(3)
4	77	9 - 16	チェバの定理の「証明」	不正確である。 (証明として)	3-(1)
5	88	10	この定理を接弦定理ということもある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「接弦」の意味が分からない。)	3-(3)
6	109	8	長方形AECG	生徒にとって理解し難い表現である。 (長方形にならない。)	3-(3)
7	145	19	整数解	生徒にとって理解し難い用語である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)
8	151	13 - 26	発展 以下は、発展的な内容です。	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)
9	160 - 165		問題を解くときに働く見方・考え方	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)
10	162	12 - 17	三角比を利用している記述	数学 I 「(2)図形と計量」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-161	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
--------------	---------	-------	--------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
11	178	21 左	「練習問題 (P. 110, 111)」の10の解答のヒントの「BM⊥CD, AM⊥CDを示し」	誤りである。	3-(1)
12	179	13 左	「3章 数学と人間の活動 (P. 168)」の3(1)の証明の指針の「1は6の倍数でもあり」	生徒にとって理解し難いヒントである。 (「6」がなぜ関係してくるのか分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-162		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	40	18	35ページの nCr の式	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの式か分からない。)	3-(3)
2	111	19 - 20	$\square 2$	不正確である。 (点Qの取り方の説明)	3-(1)
3	148	4 - 5	スタディアは当時の長さの単位で約180m	不正確である。 (スタディアは単位であって長さではない。)	3-(1)
4	149	18	$\sin 0.25^\circ$	数学I(2)「図形と計量」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)
5	152	21 - 22	a, b, sとするとき	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜsとするのか分からない。)	3-(3)
6	163 - 173		Extra	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-163	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
--------------	---------	-------	--------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	41	図	例題5の図における「B賞・・・1つ」	相互に矛盾している。 (例題5の問題文におけるB賞の個数と相互に矛盾している。)	3-(1)
2	53	側注	6の問題における側注「3つの試行が独立であるとき、その確率は、それぞれの試行の確率の積で表される。」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (3つの試行の独立の意味を含め、未習の内容であり、問題を解く際に支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
3	106	13 - 14	自然数で表される2つの量に対して互除法を行うとき、次のことが成り立つ。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([1]における「整数÷整数」との関連が分からない。)	3-(3)
4	133	14 - 16 右	「2章図形の性質」の□1, □2, □3の解答	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 102-164		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	上巻		数学A-1及び数学A-2全体	組織が適切でない。 (「数学A-2」との関連が明確でない。)	2-(12)				
2	19	18	$_n C_r = _n C_{n-r}$ ……①	生徒にとって理解し難い等式である。 ($r=n$ のとき、どうして成り立つのか分からない。)	3-(3)				
3	82	側注	14～17行横の側注「+解説」	生徒にとって理解し難い表現である。 (a, b がどのような数か分からない。)	3-(3)				
4	93	4 - 8	タレスの方法	不正確である。 (条件が足りない。)	3-(1)				
5	95	写真	右上のワインのラベル	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)				
6	97	16 - 18	□1, □2	生徒にとって理解し難い表現である。 (「□1」と「□2」の関係がどうなっているのか分からない。)	3-(3)				
7	99	4 - 7	3×3の魔方陣は1通りしかできませんが、4×4の魔方陣は880通り、5×5の魔方陣は275305224通りできる	生徒にとって理解し難い表現である。 (数え方が分からない。)	3-(3)				
8	下巻 1	18 左	問6の解答の「 $n(U)=30$ 」	生徒にとって理解し難い記号である。 (「U」が何か分からない。)	3-(3)				
9	4	18 左	「教科書 P.23」の?の解答の「確率が1/3に近づく」	生徒にとって理解し難い表現である。 (一定の値であるはずの確率が1/3に近づくとはどういうことか分からない。)	3-(3)				
10	12	28 - 29 左	「教科書 P.70」の問1(2)の解答の「直線ACはBCと交わるから」	生徒にとって理解し難い解答である。 (「BC」を考える理由が分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 2 枚目

受理番号 102-164	学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
--------------	---------	-------	--------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
11	12	29 右	教科書 P.74	誤りである。 (74ページに問6や問7などはない。)	3-(1)
12	13	2 右	教科書 P.75	誤りである。 (75ページに「章のまとめ」の問題はない。)	3-(1)
13	14	10 左	「教科書 P.79」の問1(2)の解答	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-165		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	表見返 2		「茨城県:水戸芸術館」の説明における「26個の正四面体」	誤りである。	3-(1)				
2	6	9 - 10	数学では、それに属しているか属していないかを明確に区別できるものの集まりを集合という。	組織が適切でない。 (「属する」の説明は12行でなされている。)	2-(12)				
3	127	21 - 22	一般に、2つ以上の整数について、次のことがいえる。公約数は最大公約数の約数、公倍数は最小公倍数の倍数	不正確である。 (4ページ「教科書のてびき」における13行の凡例に合わない。)	3-(1)				
4	136	15	3と5は互いに素であるから、xは5の倍数となる。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (なぜ互いに素であることからいえるのか説明がなく、理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)				
5	141	19 - 25	発展	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)				
6	141	19 - 25	発展	数学Ⅱの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)				
7	145	図	中央図の下のキャプションにおける「改」 他に、下図のキャプションにおける「改」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「改」が何を示すのか分からない。)	3-(3)				
8	裏見返 10	囲み	左下の枠囲みにおける「高木貞二」	誤りである。	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-166		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	114	6 - 13	●家紋「梅」のかき方	生徒にとって理解し難いかき方である。 (説明が不足しているので、どのようにかいてよいか分からない。)	3-(3)
2	136	4 - 5	② $r \neq 0$ ならば、 b を a に、 r を b に置きかえて①にもどる 及び4行横の図の「 $b \rightarrow a$ 」, 「 $r \rightarrow b$ 」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように置きかえるのか分からない。)	3-(3)
3	145	17 - 18	$\sqrt{(6378+3.776)^2-6378^2} = \sqrt{48180.9141}$	不正確である。 (等式が成り立たない。)	3-(1)
4	149	11 - 15	GPS (～) は、～地図上に表示する仕組みのことである。	不正確である。	3-(1)
5	154	25 左	「2節 CHECK…p. 68」の□15の解答	不正確である。	3-(1)
6	154	17 右	「章末問題B…p. 67」の□9(2)の解答	誤りである。	3-(1)
7	157	3 左	「1節 CHECK…p. 141」の□1の解答の最大公約数の値	誤りである。	3-(1)
8	157	11 - 12 右	「章末問題A…p. 153」の□2(1)の解答	誤りである。	3-(1)
9	後見返し3	1 左	□5 垂線の作図 ほか左段6行「□6 三平方の定理」	生徒にとって理解し難いタイトルである。 (指摘事項下に書かれている内容との関係が分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 102-167		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学A	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	53	11 - 13	正六角形の中に6個のひし形が描かれています。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの正六角形を指すのか分からない。)	3-(3)
2	68	5 - 7	点PをCからAに近づけていくと、直線PAは接線ATに、～近づく	不正確である。 (近づけ方によってはそうならない。)	3-(1)
3	99	26 - 28	一般に、縦a、横bの～2つの整数a、bの最大公約数である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (はじめの「a」、 「b」には条件が書かれていないので、どこで整数と考えるようになったのか分からない。)	3-(3)
4	103	5	互除法	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (6～12行に記述してあることが「互除法」と誤解するおそれのある表現である。)	3-(3)
5	112	11 - 15	例5	生徒にとって理解し難い説明である。 (どのように空間座標を定めたのか分からない。)	3-(3)
6	123	27 右	「3章 数学と人間の活動」の問14の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (設問の何に答えているのか分からない。)	3-(3)
7	127	26 2列目	重複順列…21	生徒にとって理解し難い表現である。 (左から2列目28行にも同じものがある。)	3-(3)
8	127	7 3列目	倍数…99	誤りである。 (99ページに「倍数」はない。)	3-(1)
9	巻末□ 2	2 左	2等分で線	誤記である。	3-(2)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。